現職研修委員会　社会科部

羅針盤

２０１号
H25.12.17

社会科部　情報活用委員

東日本大震災直後の体験

社会科部長　常磐東小学校長　　内田　尚之

＜はじめに＞

起きてから早３年近くになろうとする東日本大震災は、約 60 年の私の人生の中で最も忘れられない出来事の一つになりました。いや決して忘れてはいけない出来事なのです。そこで、この場を借りて私の経験の一端を知っていただき、今後の防災教育の一助になればと考え筆を執りました。

＜被災地へ＞

東日本大震災が起こった、2011 年３月 11 日の翌日から三日間、私は東北にいた。妹家族が仙台に住んでいて、たまたま３月 11 日は義弟が出張で岡崎に来ていた。仙台にいる妹と二人の子供とは全く連絡が取れず、不安と心配が極度に募る中、居ても立ってもいられず、私は義弟を乗せた車で仙台を目指した。東名高速道路は静岡県で不通、その先の東北自動車道は全線通行止めであったので、東海環状・中央・長野・上信越・北陸・日本海東北道と進んで、新潟県村上市で一般道へ下りた。その後は、米沢市・山形市・天童市・東根市などを通って北西の方角から仙台市に入ったのが、３月 12 日の昼過ぎであった。

【地震により破壊された建物】

＜奇妙な光景＞

仙台市の中心部に来て、「おや」と思える光景に出くわした。市内中心部のガソリンスタンドはほとんど閉鎖されていたが、それなのに車が列をなして並んでいた。「どうしてだろう」とよく見ると、どの車も無人であった。車だけ置いて順番を取ろうというのだ。日当たりのよい広場などにはたくさんの人が集まっていた。中には一人ポツンとしゃがみ込んでいる人も見かけた。何をしているのだろうと不審に思ったが、後で理由が分かった。電気・水道・ガス・電話・トイレなどライフラインが全滅で、日中は家にいるよりも外に出て日なたぼっこをしていた方が暖かいということである。

＜役立ったこと＞

食べものが手に入らない状況の中で大変役立ったのは、義弟が仙台へ向かう途中の田舎のスーパーで買った、卓上ガスコンロ用のガスボンベである。妹家族の住むマンションの部屋の中は、ありとあらゆる物が床に落ち、割れ物はすべてバリバリであった。電気・ガスが使えない中で、地震に耐えた卓上ガスコンロは威力を発揮した。義弟が買ったガスボンベをセットすると、震災後初めて見る火がともったのである。鍋と米、使えない冷蔵庫に残っていたペットボトルの水でご飯を炊いた。他に何もない全くの米だけのおにぎりは、この世で一番おいしいと感じた。

＜ガソリンスタンド＞

岡崎に戻るにはガソリンを補給しなければならない。開店している店を見つけたが長蛇の列だ。朝８時半に並び始めて午後２時ごろ義弟に運転を替わってもらい、何台並んでいるか数えてみた。何と直線だけで３００台、これに交差点で左右から進入しようとする車を入れたら千台はくだらないだろう。

これであきらめた。強行突破である。山形市まで行けば何とかなるだろう。

＜泣けてきた＞

岡崎へはがんを患っていた妹と二人の子供も連れて帰った。米沢で夜になりガソリンが補給できないのでやむなく駅前のビジネス旅館で泊まった。夕食は古びた焼き肉屋。肉が焼けて二人の子供（高２男と中３女）に勧めたら、二人が口々に言う。「みんなに申し訳ないから、こんなの食べられない」と。泣けてきました。

＜おわりに＞

書きたいことは山ほどありますが紙面の関係でとても書き切れません。したがって本当に断片的な一部分しかお伝えできませんでした。でも、記憶が薄れる前に、伝えられる機会があればいつでもどこでもどれだけでも、伝え得る限り今後もお伝えしていきたいと考えています。

授業力・教師力アップセミナー「基礎編」報告

８月２日、地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」でセミナーを行いました。今年も定員を大きく上回る参加人数でした。まず、六ツ美地区のフィールドワークでは、岡崎むかし館の野本欽也先生と天野幸枝先生に解説をいただきながら、大正４年に行われた大嘗祭悠紀斎田にまつわる斎田公園、中島八幡社、六ツ美歴史民俗資料室などを見学しました。午後からは、オープンしたばかりの地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」において「地域の再発見～悠紀の里・歴史民俗資料室の活用～」と題して野本先生に講演をしていただきました。あまりよく知らなかった大嘗祭悠紀斎田の意義や当時の様子などを詳しく学ぶことができ、大変有意義な１日となりました。

（基礎研修委員会委員長　矢作北中　新美　聡）

【大嘗祭ゆかりの中島八幡社・大正宮を見学】

社会科研究作品展＆発表会

今年度も社会科部と岡崎むかし館が協力して、１０月５日（土）～１５日（火）に岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）で「社会科研究作品展」を行いました。今年の社会科研究作品は、岡崎市全体では過去最多の 2742 点が製作され、そのうち小中合わせて 139 点（過去最多）の代表作品が社会科主任の先生方の協力により寄せられました。集まった作品は研究作品委員会の先生方とりぶらの職員の方々によって、りぶら２階に展示されました。展示された児童生徒には、市教育委員会より賞状が贈られました。展示期間中は、熱心に作品に見入る大勢の親子連れや市民の皆さんの姿があり、今年も大変好評を博しました。

学年	テーマ	氏　　名	学校名
小３	三島学区の小字名の由来調べ	川本　夏輝	三島小
小３	小豆坂小学校　校歌のナゾ	金子　桃佳	小豆坂小
小５	わたしの家の米作り	杉山　佳穂	生平小
小６	岡崎を豊かにした三河木綿	深津　拓未	大樹寺小
中３	我が家の地震対策パートⅢ ～南海トラフ巨大地震シュミレーション～	鳥居　智香	竜海中

【特別賞を受賞した５人のみなさん】

期間中の１０月１２日(土)には、昨年度から始まった研究発表会が行われました。特別賞を受賞した５名が、りぶらにて研究の成果を発表し、プレゼンテーションソフトを使った発表や実物を提示しながらの発表などがあり、どの発表もわかりやすくて興味深いものになっていました。

ちょっと寄り道

岡城址（美合小学区）

岡崎観光文化百選「岡城址」

美合小学校から北西にわずか百余メートル歩いた所に、「岡城址」と言われる史蹟がある。岡城は、戦国時代に池野大学によって築かれた城とされており、現在は、竹林の中に、一部に空堀と土塁の遺構が残るだけである。後に、徳川家康の手によって落城し、家康が上洛する際の宿所「岡御殿」として使用されことで知られている。

竹林の中にひっそりとたたずむその場所に足を一歩踏み入れると、どこかひんやりとした空気は澱んで動かず、当時の「時代」の雰囲気を感じ取ることができる。ふと、耳を傾ければ、どこからか声がする。乙川を隔てた美川中学校のサブトラックで、部活動をしている生徒たちの元気な掛け声であった。（美合小　三浦　良見）

第６３次　教育研究愛知県集会報告

社会科教育小学校分科会では、各単組から出された１９本のリポートをもとに、子供たちの社会認識の育成について、活発な議論が行われました。

これからの社会を支えていく子供たちが、切実感を高めながら社会問題に取り組むためにはどのような手だてが必要か、それぞれの実践を踏まえて議論する中でいくつもの提案がなされました。一つの課題に少人数で深く関わることのできるグループ学習や、実際に働く人と関わらせること、話し合いによって異なる意見を聞く機会を与えることなどの具体的な手だてを通して、子供たちの変容を感じました。また、助言者の先生からは、切実感をもたせるためには、子供の予想を覆す手だてが必要であるとご指導していただきました。今回の議論を通して学んだことを生かして、子供たちの切実感を高める実践をしていくよう努めていきたいと思います。（翔南中　中根　良輔）

社会科教育中学校分科会では、地理９本、歴史５本、公民４本の計１８本のリポートをもとに、「子供たちが主体的に取り組む学習活動のあり方」を柱としながら活発な質疑・討論が行われました。学習課題に対する生徒の学習意欲を高め、考えを深める手だてとして、地域素材や「税制」といった今日的な課題を活用したり、グループ学習を様々な方法を用いて充実させたりするなど、工夫を凝らした実践に触れることができ、大変勉強になりました。

討論では、「社会科教員として、現代社会をどのようにとらえているか」「子供たちにどのような社会認識を形成させていくか」など、未来を担う生徒たちに責任をもつ社会科教員として、深く考えなければならないテーマについて、議論が重ねられました。助言者の先生からは、「地域素材を教材化することの意義」や「話し合いのタイプに合わせた単元の終わり方」についてご指導いただきました。「子供たちに希望を語ってやるのが教育」という言葉が、とても印象に残りました。（竜海中　酒井　智之）

＊新井健祐先生（六ツ美北中）が「中学校社会科」で、森田淳一先生（竜南中）が「環境問題教育」で、それぞれ全国教研正会員に選出されました。

～小学校４年生分科会～

４年生「変わってきたわたしたちの羽根学区～よりよい地域をめざして努力した人々～」の実践について報告しました。学区の様相を大きく変えた岡崎羽根土地区画整理事業を教材とし、当時の住民たちの地域の発展を願う思い、努力や苦労について考えさせ、自分も地域社会の担い手であるという意識を高めることが課題でした。

本実践では、家族や身近な地域の人、区画整理組合の方など多くの人々とかかわることによって、昔の学区の様子や人々の思いについて知り、それらを友達と話し合うことで学びを深めていくことができました。また、今も続く駅東地区の区画整理との関連から、子供たちは昔と今を結び付けて考え、「自然を取り戻したい」「昔のように駅前をにぎやかにしたい」など、根拠ある未来像を考えることができました。

協議会では、助言者の先生から、「子供の思考の流れを自然に社会参画へとつなげていくには、地域の具体的な人物とかかわりを持ち、この人物の具体的な活動を教材の中心に置くことが必要」というご助言をいただきました。より積極的に社会参画しようとする態度の育成のために、単元構想に更なる工夫をしていきたいと思いました。（羽根小　成瀬　正和）

【中学校１年生分科会の様子】

平成２５年度

愛社研報告

【小学校４年生分科会の様子】

～中学校１年生分科会～

中学校１年生の歴史単元「六ツ美北にも一揆があった!?徳川家康と家臣が対立した三河一向一揆のなぞに迫ろう」の実践について報告しました。生徒は学区に遺されている石碑から、徳川家康と家臣が対立した三河一向一揆の存在を知り、一揆に関わった人々の苦悩や葛藤を考え、当時の人々の立場に立って話し合いをしました。

本単元を通して、家康側は「三河の国の平和を思って戦っていたこと」、家臣側は「自分たちの権利を守るために戦っていたこと」などが分かってきました。そして三河一向一揆が「強さを証明するための戦い」や「意地の張り合い」であったと、自分たちなりに歴史解釈に迫ることができました。

協議会では、助言者の先生から、「地域素材は学習における時系列を横へと広げ、歴史認識を深化させる。そして、地域への愛着や誇りを醸成し、社会形成に参画する人を育てる」とご助言を頂き、教材を地域素材に求める意義について学ぶことができました。（六ツ美北中　新井　健祐）

研究発表会報告

常磐南小学校（１０月１６日）

「未来へつなごう　常南のこころ-ESDの視点に立った教育活動の展開-」を研究主題として研究発表会を行いました。３年生の総合的な学習の時間「常南エコロタウンのすてき」の単元では、学区の新興住宅地を教材化し、その地域の良さを出し合い、問題点を知り、町を良くする方法を話し合う授業を行いました。子供たちは、エコロタウンの見学や住民への取材から得た情報をもとに、「公園がいい」「自然が豊か」「住む人が優しい」など、活発に発表しました。わずかに感じている住民の不満を想起させ、「お店がほしい」「ハイキングコースを作る」「病院を立てる」「バス停や駅を作る」など改善策を考えました。今の常南の良さを守りつつ、ふるさとを発展させたいという思いが深まりました。（常磐南小　岩見　陽）

竜海中学校　（１１月１３日）

本校の社会科部では、第１・２年次研究の課題を踏まえ、自分と他者の意見のつながりを見つめながら、相手の考えの良さを理解したり、相手の立場に立って考えたりしながら、共に思考を深めていく授業を目指して取り組んでいます。今年度は、１年生地理分野「南アメリカ州」の単元で「どうなる？ブラジルと私たちの未来」と、３年生公民分野「日本国憲法」の単元で「私の人生の中で戦争は起きる？」という授業を公開しました。「南アメリカ州」の授業では、ブラジルの農地が拡大する理由として大豆などの農産物の需要が世界的に高まっているためであると学習し、「開発を進めるべきか、自然環境を守るべきか」について話し合いました。開発か環境保護か、それぞれの理由を挙げていく中で、ブラジルの人はどう思っているかについて考えることで、日本人としての視点だけでなく、ブラジルの人の立場にも立って課題に対する考えをまとめることができました。また、「日本国憲法」の授業では、戦争が起こる可能性について、市議会議員や自衛隊員の方などからの取材をもとにした発表から授業を行いました。その後、子供たちの発表から分かった事実について関連するものをつなぎ合わせる活動を行うことで、日本を取り巻く世界の情勢や憲法の問題が浮き彫りとなり、戦争の可能性を減らすためにどうするべきか考える足場となりました。（竜海中　成田　道俊）

六ツ美中部小学校　（１１月２２日）

本校は、「明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成－環境学習を基盤にしたＥＳＤの推進－」をテーマに研究に取り組んできました。

３年生の社会科「知りたいな！わたしたちのまちではたらく人」の単元計画の中で、坂左右町にある都筑さんのナスハウスと下青野町のふれあいドームを見学しました。授業では、温室で「千両ナス」を傷つけずにおいしく育てるための温度や土の管理などの工夫や、多くの手間と時間をかけてナス作りをする努力は、だれのためかを考えさせました。一方、地域の野菜を販売しているふれあいドームでは、生産者を表示しているバーコードに注目させ、安心して買うことができることに気づかせました。「生産者」である都筑さんと「販売者」であるふれあいドームのどちらにも安全・安心な作物を「消費者」である自分たちに届けるという役割があることに結びつきました。子供たちは、授業の終末で、都筑さんがナスを食べてくれる人の「おいしい」という言葉が、ナス作りを支える原動力になっていることを知り、「都筑さんてすごい！六ツ美中部学区もすごい！！」と、学区を誇りに思う気持ちも発表することができました。

今回の授業を通して、学区で作られている作物を身近に感じ、それが、学区だけでなく学区外の人たちの生活も支えていることに気づくことができました。また、学区を誇りに思い、これからも六ツ美中部学区で作られる野菜を大切にしていきたいと考えるきっかけになりました。話し合いを通じて地域とのつながり、関わりについての考えが深まりました。（六ツ美中部小　井上　義丸）